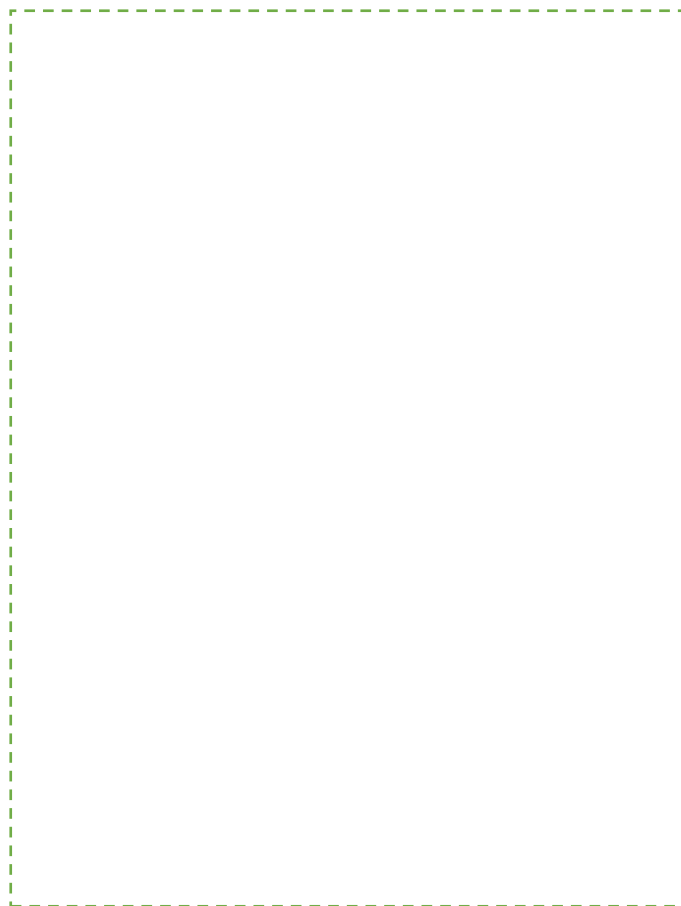


平成 29 年（2017）年度～平成 33（2021）年度

石狩市観光振興計画（素案）

※基本理念 ○○○ ○○○ ○○○



（イメージ写真）

平成 29 年4月

企画経済部商工労働観光課

目次

背景

- 1 国の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 北海道の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

石狩観光における現状と課題

- 1 現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 観光入込客数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 調査対象別観光入込客数・・・・・・・・・・・・ 5
- 4 アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 5 課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

目指す「観光・石狩」の姿

- 1 計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 2 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 計画の基本理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 4 計画の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 5 計画の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 6 4つの基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

計画の具体的な施策

- 1 施策の基本方向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

協働の姿と推進体制

- 1 協働の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 2 推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

●表紙／「寒塩引（カンシオビキ）」

江戸幕府への献上品「寒塩引」200年の時を経て、復活しました。幾重もの丹精な工程を重ねるため、完成するまで約半年の月日を要します。

背景

1 国の動向

少子高齢社会の到来や本格的な国際交流の進展を視野に、観光がその使命を果たすことができる観光立国の実現を国家戦略として位置付け、「観光基本法」を全面改正した「観光立国推進基本法」が平成18年12月に成立し、平成19年1月より施行されています。

平成20年10月には国土交通省に観光庁が設定されるなど、観光立国の実現に向けた取組を推進しています。

新たな成長戦略として、「日本再興戦略」が閣議決定され、2015年1,974万人の訪日外国人旅行者数を「2020年に4000万人、2030年に6000万人」に増やす新目標を決め、「2020年に2000万人、2030年に3000万人」としてきた従来目標から大幅に上積みし、受け入れ環境の整備も急ぐこととしています。

また、2020年の夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定され、一層の訪日外国人旅行者数の増加が期待されています。

2 北海道の動向

北海道では、平成13年10月19日に公布・施行した「北海道観光のくにづくり条例」に基づき、観光に係わるすべての関係者が連携・協働して観光振興に関する施策を総合的、計画的に推進するための「北海道観光のくにづくり行動計画」を策定しています。

また、全国を上回るスピードで人口減少が進んでいる北海道では、経済規模の縮小など、地域経済への影響が懸念されるため、平成27年7月に「人材」「地域」「知・技術」「健康長寿・医療」「環境・エネルギー」の5つの戦略分野を軸に産業集積を図る「地域経済の強化に向けた基本方針」を策定しています。

観光分野の取組としては、外国人観光客の誘客促進のための効果的なプロモーションのほか、Wi-Fi環境の整備促進など、受入体制の拡充などにより、2020年度における外国人観光客数300万人を目指しています。

加えて、平成28年3月26日開業の北海道新幹線の全道への波及効果を高めるため、地域資源を活用した着地型観光メニューの開発などを図っています。

石狩観光における現状と課題

1 現状

本市は、札幌市の北側に位置しており、南北に長い、自然豊かな街並みです。

札幌中心部から車で約30分、新千歳空港からも高速道路を利用すると車で約60分と交通アクセスにも恵まれ、「人・物・情報」がスムーズに流れている環境にあります。

平成22年度までは、年間170万人程度の観光入込客で推移していましたが、平成23年に「とれのさと」の開業、平成27年には「番屋の湯」が再開するなど、観光入込数が大幅に増加し、平成27年度では、初めて200万人（207万人）を超える観光入込客数となりました。

平成27年度の観光入込客数207万人のうち、道内客が99%を占め、その殆どが日帰り観光となっている現状であります。

2 観光入込客数（延べ人数）

本市の観光入込客の大半は道内客で、季節格差が極端に大きいのが特徴です。

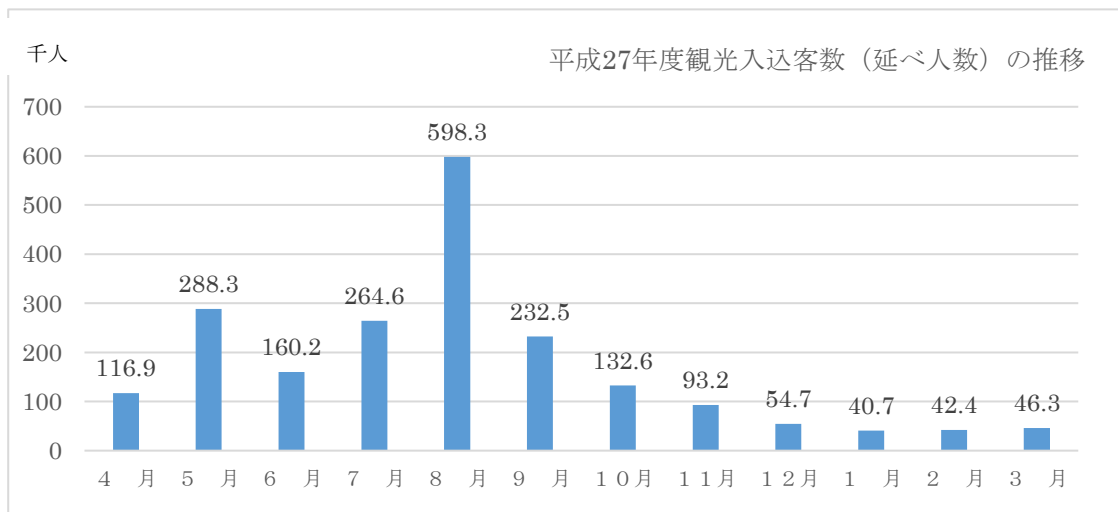
平成27年度調査では、最も少なかった1月の41,000人と、最も多かった8月の598,000人を比較すると、およそ14.6倍の格差があります。（表1）

年度別の観光入込客数の推移は、計画時の平成19年度の150万8千人から平成27年度の207万人を比較すると37.3%増となっています。平成23年度（東北地方太平洋沖地震）以降、微増傾向にあります。（表2）

月別の宿泊客の傾向では、最も少なかった3月の250人、最も多かった8月の17,700人を比較すると、およそ70倍の格差があります。（表3）

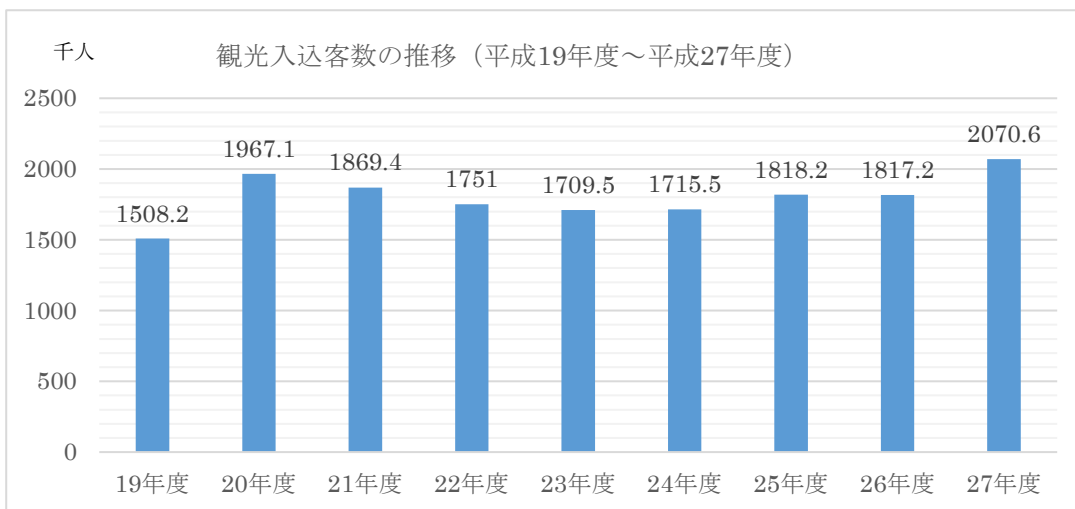
平成27年度市内観光入込客数の内訳では、207万人のうち、旧石狩地区125万人（61%）、厚田区69万人（33%）、浜益区13万人（6%）となっています。（図4）

【図表1】



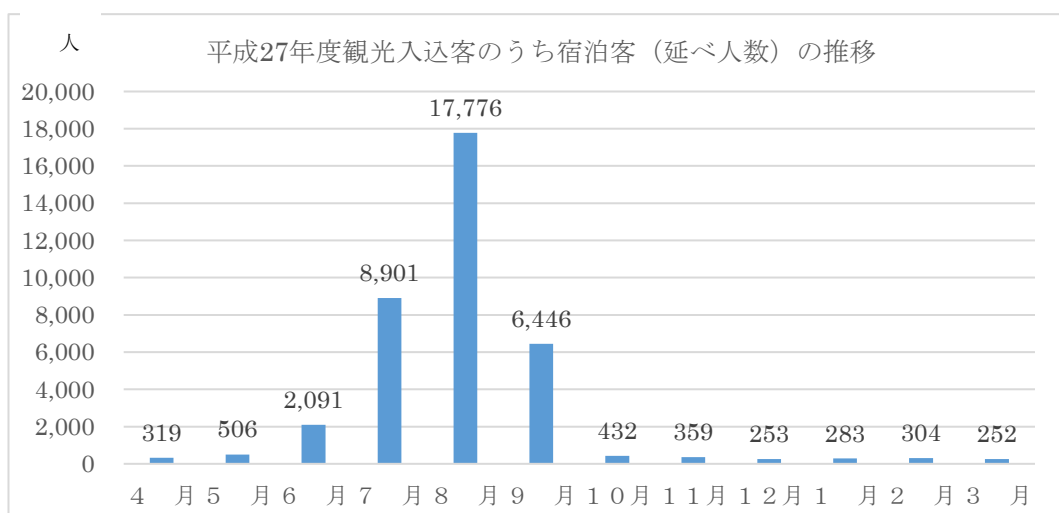
出典;平成27年度観光入込客数調査・石狩市

【図表 2】



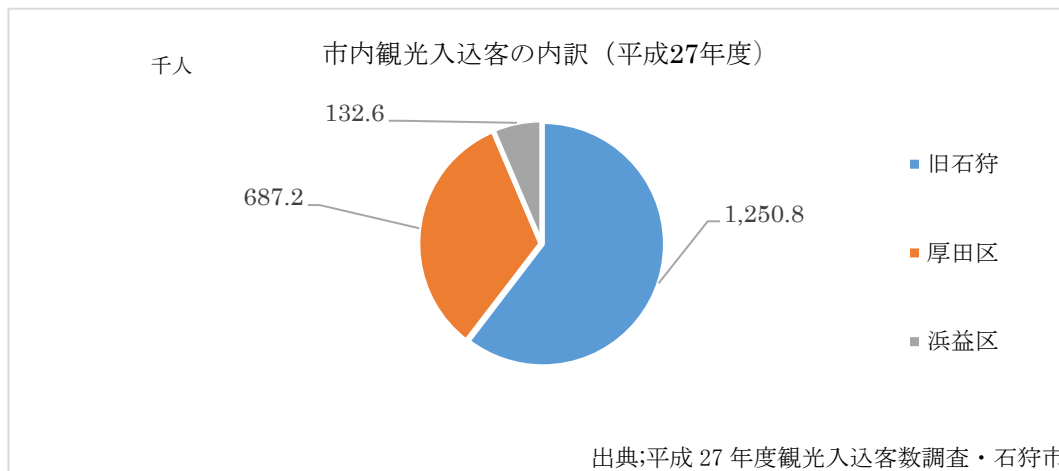
出典;平成 27 年度観光入込客数調査・石狩市

【図表 3】



出典;平成 27 年度観光入込客数調査・石狩市

【図表 4】



出典;平成 27 年度観光入込客数調査・石狩市

3 調査対象別観光入込客数（延べ人数）

調査対象別観光入込客数では、スポーツ・レクリエーション施設の観光入込客数が77.7万人と全体の37.5%を占めています。民間施設を除くと「あそびーち石狩」が唯一20万人を超えています。

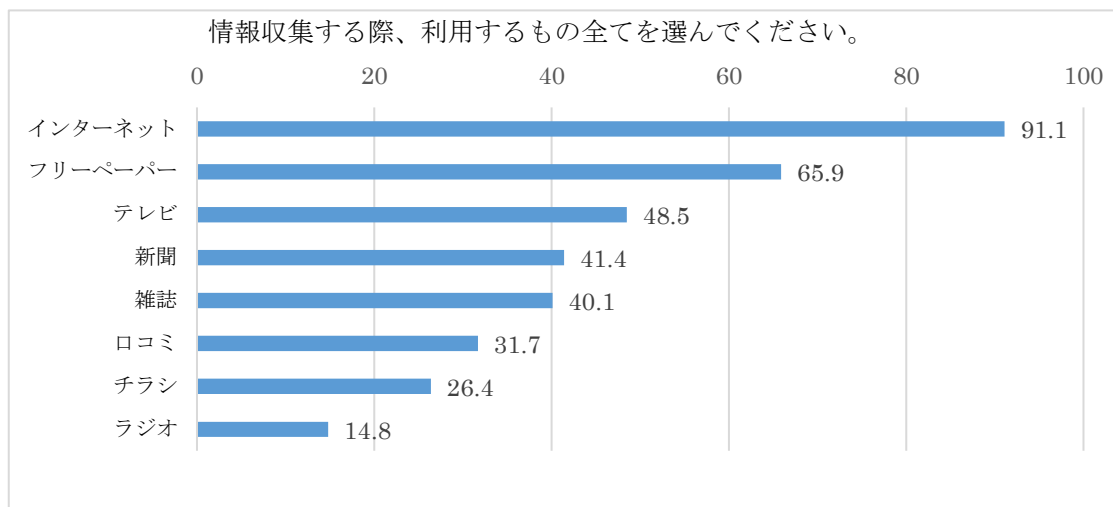
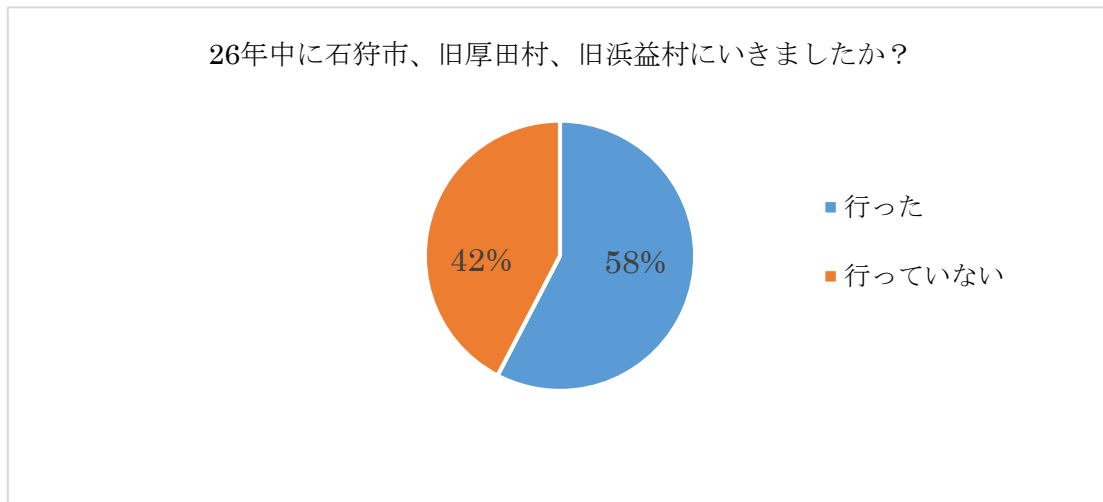
区 分		H27年度入込客数（人）		構成割合	
石狩市		2,070,551		100.0%	
	旧石狩	1,250,797		60.4%	
	厚田区	687,185		33.2%	
	浜益区	132,569		6.4%	
分 類	観光対象地	エリア	入込客数（人）	構成割合	
自然			467,490	22.6%	
	樽川公園	旧石狩	5,851		
	戸田記念墓地公園	厚田区	419,292	①	
	厚田公園	厚田区	34,236		
	千本なら	浜益区	4,924		
	黄金山 展望台	浜益区	1,710 1,477		
歴史・文化			3,188	0.2%	
	砂丘の風資料館	旧石狩	2,436		
	郷土資料館	浜益区	752		
温泉			217,207	10.5%	
	番屋の湯	旧石狩	159,620	⑤	
	浜益保養センター	浜益区	57,587		
スポーツ・レクリエーション施設			776,776	37.5%	
	あそびーち石狩	旧石狩	201,670	③	
	サテライト石狩（+感謝祭）	旧石狩	238,860	②	
	ゴルフ場（4）	旧石狩	112,675		
	ウエイクボードフェス	旧石狩	2,000		
	シーサイドみなくるPG	厚田区	11,522		
	ゴルフ場（4）	厚田区	121,244		
	海水浴場 ※海浜プール除く	厚田区	23,358		
	濃尻海浜キャンプ場	厚田区	1,985		
	フロンティア乗馬クラブ	厚田区	6,197		
	厚田海浜プール	厚田区	13,165		
	川下海水浴場	浜益区	22,782		
	川下海浜公園キャンプ場	浜益区	17,952		
	林道ウォーク	浜益区	133		
	サケ釣獲調査	浜益区	3,233		
	食・グルメ			360,838	17.4%
		とれのさと	旧石狩	169,482	④
サーモンファクトリー		旧石狩	131,471		
新港朝市		旧石狩	17,600		
漁港朝市		厚田区	26,300		
ふるさと朝市		浜益区	14,100		
カフェ・ガル		浜益区	1,885		
イベント			184,252	8.9%	
	石狩さけまつり	旧石狩	32,000		
	ライジングサンロックフェス	旧石狩	65,000		
	いしかり浜サンドパーク	旧石狩	6,100		
	寒中屋台村	旧石狩	5,000		
	石狩まるごとフェスタ	旧石狩	53,000		
	ホクレンパールライス（感謝祭）	旧石狩	8,652		
	ふるさとあきあじ祭り	厚田区	11,000		
	浜益ふるさと祭り	浜益区	3,500		
案内所			58,266	2.8%	
	石狩観光センター	旧石狩	10,480		
	ビジターセンター	旧石狩	28,900		
	夕日の丘観光案内所	厚田区	18,886		
その他			2,534	0.1%	
	民宿客	浜益区	2,534		
合計		2,070,551		100%	

（出典：平成27年度観光入込客数調査・石狩市）

4 アンケート調査結果

平成 27 年民間会社が実施アンケートでは、平成 26 年中に「石狩市、旧厚田村、旧浜益村」のいずれかに行ったと回答した割合は、約 6 割（回答者の 5 人に 3 人）、目的別では、ドライブ 43.3%、朝市 23.7%、海水浴 19.3%となっています

また、情報収集の仕方については、インターネットが 91.1%がもっとも多く、次いでフリーペーパー65.9、テレビ 48.5%、新聞 41.4%となっています。



以下、他のアンケート結果、掲載（集計中）

5 課題

近年、観光入込客が増加しているのは、「とれのさと」の開業や「番屋の湯」の再開効果によるものが大きく、既存観光施設や事業の入込は横ばい傾向にあります。

公的な施設では、「あそび一ち石狩」の集客が20万人を超えており、この増減が本市観光入込客数に大きく影響を与える傾向にあります。

平成23年度より新たに「いしかりサンドパーク」事業を展開し誘客に努めています。が、入込客数とそれに伴う駐車場収入は減少傾向にあります。

海水浴場の駐車場収入が本市の観光事業を推進する観光協会収入の柱になっていることを考えると、更に周辺エリアとも連携するなどして魅力ある空間作りや事業を展開して集客を図っていくことが重要と考えています。

また、本市のイメージ戦略の核ともいえる「鮭」にまつわる歴史・文化や「石狩鍋」などの食は、当市の個性を際立たせるという意味でも更なる磨きをかけて情報発信等をしていくことが重要であると考えます。

一方で地元の人たちがそれをよく知っているかということ、十分とはいえません。そのために、次世代を担う子どもたちが正しく「鮭」にまつわる歴史・文化や「石狩鍋」などの「食」といった本市の魅力を理解して、一人ひとりがまちの魅力を発信できるよう、「サケ育」の推進にも取り組んでいく必要があると考えています。

これからは、モノや風景だけでは観光客を呼べる時代ではありません。受入体制の拡充の面では、市民自らが地域に愛着をもち、観光振興への市民参加を一層促進することや観光事業者等への支援により、まちぐるみで「おもてなし」の視点をもって、観光客をお迎えすることが重要です。

併せて、他市町村との広域連携による取組みの推進や札幌市や小樽市へ多く来訪している外国人観光客の誘致、受入体制の拡充などにより、「持続可能な施策」も求められています。

観光客の来訪目的の一つに「食」があります。「食」そのものが地域の魅力を象徴するものであるため、総合的な物産支援機能の創設により、「石狩製品の価値を高める施策」も今後取り組んでいくべき課題と考えられます。

目指す「観光・石狩」の姿

1 計画の期間

本計画は、平成 29 年（2017）年度から平成 33（2021）年度までの 5 年間で取組みます。

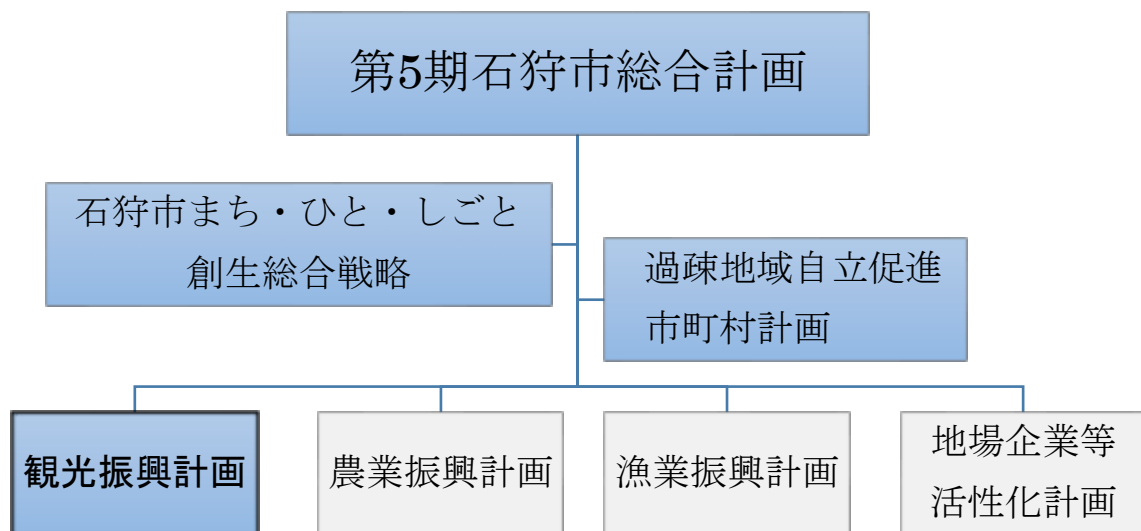
なお、計画策定後は、この進捗状況を把握に努めるとともに、観光を取り巻く社会的情勢の変化などに対応し、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

2 計画の位置づけ

石狩市観光振興計画は本市の最上位計画である、第5期石狩市総合計画に基づき、「30年後のまちの持続」、「いしかりPRIDEの醸成」の実現に向けて、本市の観光振興の進むべき方向性とあり方を示すものです。

観光は、自然や食をはじめ、まちづくり、広域連携、スポーツなど、幅広い分野の様々な要素から構成されているため、社会情勢の変化等に影響を受けやすいという側面があります。そのため、「石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をはじめ、企画経済部産業振興等関連計画との整合性を図りながら推進していきます。

【石狩市総合計画と企画経済部産業振興計画との相関関係】



3 計画の基本理念

※基本理念 ○○○ ○○○ ○○○

第2次となる本計画は、次の項目について、前計画で設定した「基本理念」を継続して取り組んでいきます。

- ① 観光資源の保存・再生・活用に重点を置いた観光振興を目指し、「何度も訪れたいような魅力ある観光地づくり」＝「住んでみたいまちづくり」を進めます。
- ② 観光客と住民が交流する「人と人とのふれあい」を通じて、自らの地域に対する魅力を再発見し、愛着・誇りの醸成や地域住民のホスピタリティの向上を目指し、地域の活性化を図ることを目標とします。
- ③ 観光に関連する団体・事業者をはじめ、基幹産業である農漁業者・地域住民・行政が協働して観光振興に取り組む姿勢が不可欠です。地域が自律的かつ主導的に「地域体力」にあった観光開発を進めていくことにより、継続的に地域の振興を進めます。
このような取組みにより、観光産業が創出され、経済効果が得られ観光のまちづくりによって地域が潤うことを目指すものです。



4 計画の目的

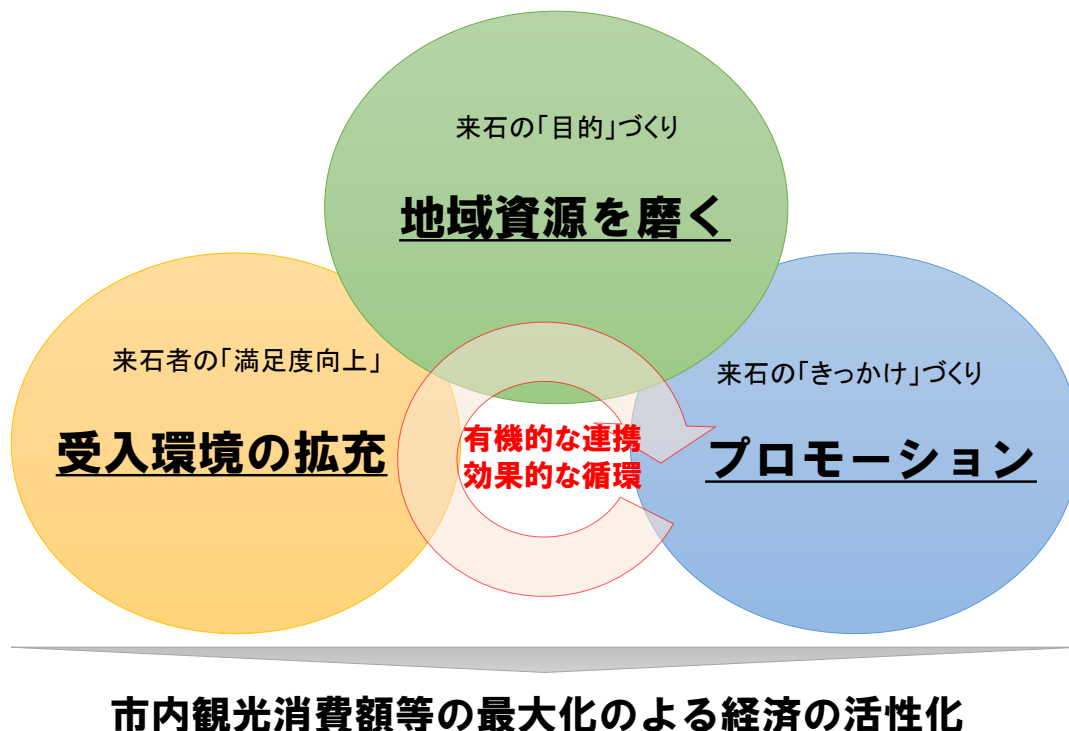
「観光」という視点で、市民・事業者・行政が協働してまちづくりに取り組むことによって、まちの発展に寄与し、地域のすべての人々に恩恵をもたらします。

観光客が喜ぶ姿は、市民の市への愛着・誇りを醸成するとともに、市内経済の活性化に寄与するものと考えます。

市にとっては収入が増すことで市民サービスを拡大できることにつながります。

地域の資源（宝）を磨き、無から有を生むことで来石する「目的」を創造し、これらの資源をターゲットに最適化してプロモーションすることで来石する「きっかけ」づくりを行い、さらに来石者にリピーターになってもらえるよう「満足度を向上」するための受入環境の整備を行うことで、観光消費額の増加を図り、市内経済の活性化を促進するという好循環を形成します。

このようなサイクルを活発化するためには、「協働は、地域のすべての人々のため」という共通認識に立ち、全市を挙げて観光に取り組むことが、さらに求められていると考え、第1次石狩市観光振興計画から継続して進めていきます。



5 計画の目標

観光入込客数の増加、市のホームページアクセス数の増加（観光部門）を成果指標とし、「観光客の満足度を高める」「経済の波及効果を高める」「市民の満足度を高める（石狩 PRIDE）」という質的目標を設定します。

（数値目標）

指 標	数値目標
交流人口数（観光客等入込数）	211.2 万人
ホームページアクセス数	183.7 万件
地域の資源を見つけ、価値を創造し、魅力あるまちにしてい くための集まりに参加している（参加したいと思う）市民の 割合（市民意識調査）	50%

（出典：石狩まち・ひと・しごと創生総合戦略）

（具体的な施策と重要業績評価指数【KPI】）

項 目	具体的な施策・事業	重要業績評価指数
観光資源を生かした交流人口の誘導	<p>少子高齢化やレジャーの多様化等を背景に、全国的な海離れが進む中、安全安心、気軽・手軽、快適をキーワードとする「石狩の海辺の魅力」を創造し、誘客を図る。</p> <p>（具体的な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海辺の魅力創造推進事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・海辺の施設・イベント等の入込客数 5年間で122万人（参考） 【平成27年度】 24.4 万人
鮭の歴史文化の醸成による観光産業の活性化	<p>石狩古来の石狩鍋やちゃんちゃん焼きなど、鮭料理の更なる知名度アップを図るほか、鮭漁で栄えた石狩の歴史や文化を広くPRすることにより、石狩市民が誇るアイデンティティを醸成し、鮭を中心とした観光産業の活性化を図る。</p> <p>（具体的な事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「サケの文化発信」事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成33年度のサケの文化発信サイトアクセス数 2.7万件 ・石狩市三大秋祭り入込数 5年間で24.4万人
「石狩ブランド」の推進	<p>本市の特産品などの「石狩ブランド」を、動画ならではの表現力でダイレクトに発信するため、動画サイトを活用して観光協会等の関連団体ホームページや通</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成33年度の地場特産品販売額 4,000万円

	<p>販サイト、物産・観光パンフレット等の紙媒体と連動した独自のチャンネルを構築し、新たなメディアとしてまちの広報活動を展開する。</p> <p>(具体的な事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石狩ブランド情報発信事業 	<p>(参考)</p> <p>【平成27 年度】</p> <p>3,969万円</p>
外国人旅行者の誘導	<p>札幌市を中心とした道央圏（南方面）の外国人旅行者を当市に誘導するよう取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2,000人を誘導（40人×50週） <p>(参考)</p> <p>札幌市と小樽市宿泊者年間約152万人</p>

(出典:一部を除き、石狩まち・ひと・しごと創生総合戦略)

6 4つの基本施策

観光振興の基本理念に基づき、目標達成に向けた基本施策を次のとおり設定します。

1 「地域個性を生かした観光」で潤う

- ・観光施設やイベントなど既存の観光資源の魅力アップを図り、新たな資源の創出にも取り組むことで本市を訪れる「目的づくり」を行いながら、市内周遊を促進します。
- ・北海道・本市の文化・歴史を象徴する「サケ」について、観光資源として更なる磨きをかけ情報発信し、市民が誇るアイデンティティとして認識されるよう意識の醸成を図ります。
- ・市内の観光資源を点ではなく、複数スポットで構成される面で魅せることにより、付加価値を創出して集客力を高め市内の周遊を促進します。

2 「持続可能な観光」で潤う

- ・観光事業が活性化されるよう観光関連事業者の支援を行い、観光ビジネスに関する情報提供により、新たなビジネスの創出や事業の拡大などを支援します。
- ・複数の市町村をテーマ性・ストーリー性をもって周遊する「広域観光」に取り組み、リピーターや外国人観光客の集客を図ります。
- ・外国人観光客が多く来訪している札幌市や小樽市に隣接している本市の地理的優位性を活かし、プラスアルファの観光地として選択されるよう誘致を図っていきます。

3 「おもてなしの視点から始める観光」で潤う

- ・市民自らが地域に愛着をもち、その魅力を案内できるよう意識の醸成を図り、観光振興への市民参加を促進することで、来石者の満足度の向上を図り、また訪れたいと思ってもらえるような受入体制づくりを進めます。
- ・市内の観光に関する情報を効率的且つ素早く収集し、戦略的に発信できるように体制を整備します。

4 「石狩製品の価値を高める観光」で潤う

- ・「食」は、観光客の来訪目的の代表的なものであり、また、「食」そのものが地域の魅力を象徴するものであるため、その価値の向上に取り組むとともに観光プロモーションと一体的に展開していきます。

計画の具体的な施策

1 施策の基本方向

基本理念、基本施策の達成に向けて重要となる具体的な事業を、次のとおり展開することとします。

※なお、実施事業が他の産業振興計画と関連がある場合は□で表記しています。例：

地場企業等活性化計画

(1) 「地域個性を生かした観光」で潤う

基本施策	具体的な施策
観光資源の活用と整備 観光施設やイベントなど既存の観光資源の魅力アップを図るとともに新たな資源の創出にも取り組むことで本市に訪れる「目的づくり」を行いながら、市内周遊を促進します。	海辺の魅力アップ ・強力な集客コンテンツの一つとなっている海水浴場において、体験プログラムなどの新たなサービスの導入や、イベントの拡充など地域の魅力のPRを強化することにより、来場者の満足度向上を図りながら、更なる集客を目指すとともにこれらを活用した市内の周遊を促進します。
	イベントの魅力アップ ・三大秋祭りなどのイベントにおいて、「食」を中心とした集客力が高いコンテンツのPRや会場内の新たな賑やかさを強化するほか、地域が更に一体となって実施することで地域外からの来場者へ「おもてなし空間」を提供するなど更なる魅力アップに向けて取り組みを進めます。
	歴史・文化資源の発掘・発信 ・サケやニシン漁とともに発展してきた本市の歴史・文化を重要な観光資源の一つとして捉え、資源に関連する関係機関の協力を得ながら、更なる魅力アップや情報発信を行います。
	道の駅「(仮称) あったかあいろーど」のPR ・市内の重要な周遊及び情報発信拠点として平成30年開業予定の道の駅「(仮称) あったかあいろーど」について、様々な機会を活用しながら、恋人の聖地など既存の観光資源との連携や署寒別連峰まで含んだ石狩北部エリア観光の充実という観点からもPRを行います。
	イベントの誘致及び周遊の促進 ・市内では、道内最大級の音楽フェス「RISING SUN ROCK FESTIVAL」が行われ、道内外から多くの来場者（平成27年実績で約65,000人）が訪れており、今後は、同イベントと更なる連携を深めるとともに更なるイベントの誘致やこれらのイベントを活用した市内周遊の仕組みの構築にも取り組んでいきます。
	温泉の魅力アップ

	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社のツアーへの組み込みや利用者の満足度を高めるためのサービスの開発・提供を支援することでリピーターの増加へと結び付けるほか、近隣の民宿等との連携も促進します。
サケの文化発信 <p>平成27年にミラノ国際博覧会の北海道の日で「石狩鍋」が紹介されるほど、北海道・本市の文化・歴史を象徴するコンテンツの一つとなっている</p> <p>「サケ」について、観光資源として更なる磨きをかけて情報発信をしていくとともに市民が誇るアイデンティティとして認識されるよう意識の醸成を図ります。</p>	サケの食の発信 地場企業等活性化計画 <ul style="list-style-type: none"> ・道外での知名度も高い「石狩鍋」の更なる普及促進を核として、「寒塩引」や「チャンチャン焼き」、市内で生産されているサケを活用した加工品などを、観光素材とともに全国や海外の食品バイヤーや旅行会社、メディアなどへ広く発信していきます。
	サケの文化・歴史の発信 <ul style="list-style-type: none"> ・石狩発祥の地「本町地区」のサケ漁とともに発展した文化・歴史を地域住民や観光ガイドボランティア、石狩観光協会などと連携して、魅力の再構築し、旅行会社やメディア等へ広くPRしていきます。
	「サケ育」の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・児童、生徒などの次世代を担う層を中心としたサケの文化・歴史の伝承や石狩鍋の調理体験などの実施により、シビックプライド（石狩PRIDE）の形成を図る「サケ育」を推進することで、市民一人一人がまちの魅力を発信できるよう取り組んでいきます。
魅力ある観光ルートづくり <p>市内の観光資源を点ではなく、テーマ性やストーリー性をもった複数スポットで構成される面で魅せることにより、付加価値を創出して集客力を高めるとともに市内の周遊を促進します。</p>	グリーンツーリズムの推進 農業振興計画 <ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村地域を豊富に有するとともに都市部に隣接しているポテンシャルの高さを活かし、ヘルシーウォークなどのイベントの開催や体験プログラムの開発、周遊ツアーの造成などを支援していきます。
	本町地区の周遊観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・サケの文化・歴史施設や海水浴場、周辺の飲食店の周遊の促進を図るため、地域住民や観光ガイドボランティア、石狩観光協会などと連携して、多彩なモデルコースの作成や新たな体験メニューの開発などを行い、旅行会社やメディア等へ広くPRしていきます。
	産業観光の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・石狩湾新港地域に立地する企業の協力を得ながら、工場見学などを観光ルートの素材として活用し、市内外の学校の社会見学やファミリー層へ向けてPRをしていきます。

(2) 「持続可能な観光」で潤う

基本施策	具体的な施策
観光関連事業者等への支援 <p>市内において、観光事業が活性化さ</p>	一般社団法人石狩観光協会の機能強化 <ul style="list-style-type: none"> ・観光業界は常に新たなトレンドに対し、迅速且つ的確に対応した

<p>れるよう観光関連事業者の支援を行うとともに、観光ビジネスに関する情報提供により、新たなビジネスの創出や事業の拡大などを支援します。</p>	<p>施策を展開することが必要不可欠であり、その役割を担うことができるのは市内の観光関連事業者等で組織されている「一般社団法人石狩観光協会」です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市は、市内で唯一の観光資源のマネジメント役である観光協会が活動しやすい環境づくりに取組むとともに観光施策の推進にあたっては、観光協会と両輪となって取り組み、地域への経済効果の最大化を図っていきます。 <p>情報収集及び提供 地場企業等活性化計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の観光情報や市及び国や道などの関係機関が実施する各種支援情報等の収集に努めるとともに観光関連事業者へ提供していきます。 ・また、観光に携わるもの同士が情報交換できる場をつくり、相対的な観光人材のレベルアップを図ります。
<p>広域観光の推進</p> <p>複数の市町村をテーマ性・ストーリー性をもって周遊する「広域観光」に取組むことにより、リピーターや外国人観光客の集客を図ります。</p>	<p>オロロンラインを活用した他市町村との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小樽市や増毛町などの“日本海オロロンライン”も従来どおり視野に入れながら、新たな観光情報の発信拠点「（仮称）あつたかあいろーど」を核とした広い範囲でのネットワークづくりを進めます。 <p>石狩管内市町村との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さっぽろ広域観光圏推進協議会や札幌広域圏組合など石狩管内の7市町村との連携を引続き強化していきます。
<p>外国人観光客の誘致</p> <p>既に外国人観光客が多く来訪している札幌市や小樽市に隣接している本市の地理的優位性を活かし、プラスアルファの観光地として選択されるよう誘致を図っていきます。</p>	<p>海外へ向けた情報発信の強化 地場企業等活性化計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や道、他市町村などの関係機関と連携を図り、海外の旅行会社やメディアへの観光情報の提供などを積極的に行うとともに和の風情が漂う本町地区などにおいて、日本文化体験メニューの開発を検討します。 ・また、来道の目的の一つとなる「食」のPRについても、市内物産の輸出支援などの検討も含め一体的に進めていきます。 <p>外国人観光客の受入体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人観光客の受入について、市内事業者の意識を醸成するとともに基礎的な対応スキルの習得などを促進します。

(3) 「おもてなしの視点から始める観光」で潤う

基本施策	具体的な施策
<p>受入体制の拡充</p> <p>市民自らが地域に愛着をもち、その魅力を案内できるよう意識の醸成を図るとともに観光振興への市民参加を促進することで、来石者の満足度の向上</p>	<p>市民観光サポーターの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が地域の魅力に気づき、理解し、自ら観光推進に参加することで、まちが丸となった「おもてなし」をすることが出来るよう意識の醸成を図ります。 ・また、観光イベントや観光施設の運営などにあたっては、市民と

<p>を図り、また訪れたいと思ってもらえるような受入体制づくりを進めます。</p>	<p>協働でつくりあげていくことを積極的に検討するとともに、生産者等も含めたと広いネットワークづくりを進めていきます。</p>
	<p>観光ガイドの育成・支援</p> <p>・地域の魅力を対面で案内する観光ガイドは、観光客の満足度向上において重要な要因の一つです。そのため、良質なガイドの育成や人員の増強などに取組むとともに、旅行商品への組み入れやタクシーなどの2次交通と連携した取り組みについても支援していきます。</p>
	<p>観光案内看板の整備</p> <p>・観光客が分かりやすく目的地までたどり着くことができるための誘導看板や観光スポットなどが分かりやすく紹介されている案内看板の整備を進めます。</p>
	<p>ユニバーサルデザインの推進</p> <p>・子育て世代や高齢者、障がいを持つ方にも安全・快適に観光が楽しめるよう、観光関連施設の整備やイベントの実施等にあたっては、すべての人に優しいユニバーサルデザインの導入やバリアフリー化に努めます。</p>
<p>情報ネットワークの活用と充実</p> <p>市内の観光に関する情報を効率的、かつ、素早く収集し、また、戦略的に発信できるように体制を整備します。</p>	<p>観光戦略会議の実施</p> <p>・市内の観光産業に携わる実務者レベルのメンバーで構成する会議を組織し、観光振興計画の進捗管理を行います。（石狩市観光振興計画検討会をベースに組織）</p> <p>・また、市役所内においても観光に関連する部署が一同に会し、情報共有を行う庁内連絡会議を実施します。</p>
	<p>多様なメディアの活用</p> <p>・市や石狩観光協会の広告媒体のほか、WEBサイトや雑誌、テレビ、ラジオ、さらには近年高い口コミ効果が期待できるSNSなどの多様なメディアを戦略的に活用して効果的な情報発信を行っていきます。</p>
	<p>旅行商品の造成へ向けた働きかけ</p> <p>・旅行会社への訪問や北海道観光振興機構が実施する旅行商品商談会などへの参加により、旅行会社との人的ネットワークを構築するとともに石狩市の観光素材の売り込みを行っていきます。</p>

(4) 石狩産品の価値を高める観光で潤う

基本施策	具体的な施策
<p>石狩ブランドの確立</p> <p>「食」は、観光客の来訪目的の代表的なものであり、また、「食」そのも</p>	<p>総合的な物産の支援機能の創設 地場企業等活性化計画</p> <p>・市内において、特産品の開発や新たなものづくりに加え、その販路拡大までを総合的に支援できる機能の創設に向けて、検討してい</p>

<p>のが地域の魅力を象徴するものであるため、その価値の向上に取り組むとともに観光プロモーションと一体的に展開していきます。</p>	<p>きます。</p> <p>認定制度などの活用</p> <p>・石狩の物産や観光資源について、市や関係機関等がその価値や魅力を認定する制度を活用することで、他地域の物産などとの競争力の強化を図ります。</p>
--	--

協働の姿と推進体制

1 協働の姿

本計画を着実に実行し推進していくためには、その主体となる市民が観光事業者、関連団体と行政が共に汗をかき、協働していく必要があります。それぞれの役割に応じて、自主的・積極的な取り組みを進めるとともに、相互に理解・協力しあって、「観光・石狩」の未来を切り開いていくことが求められています。

2 推進体制

本計画は、観光振興計画検討会を中心に、市民や事業者、観光協会をはじめとする関係団体等と連携しながら、オール石狩で推進します。

また、計画期間を5か年とする事業計画を立案した上で、本計画に掲げた目標の達成を目指します。

(1) 市民の役割

観光客は、様々な人やサービスに接した上で、まちへの印象や思いを持ち帰るため、市民一人ひとり、本市の魅力を発信する重要な担い手となります。

そのため、自らが地域の魅力づくりに参画し、その良さを理解・発信し、観光客を温かく迎える「おもてなし」の地域づくりに努めます。

(2) 観光事業者の役割

観光事業者は、観光客のニーズを的確に把握し、地域の魅力を有効活用してサービスを提供するとともに地域の観光振興へ向けた取り組みにも積極的に参加するなど地域の発展にも寄与するよう努めます。

(3) 観光協会の役割

観光協会は、「観光産業の健全な発展を図り、市民生活文化の向上と地域産業経済の発展に寄与する」というその設立目的を踏まえ、市内観光資源を効果的にPRしていくほか、イベントや海水浴場などの集客コンテンツの魅力アップと地域への経済波及効果の向上を図るとともに観光客や観光事業者の受入体制を強化することに努めます。

(4) 行政の役割

市民・観光事業者・観光協会が観光振興計画で掲げた共通の理念や目的のもと、オール石狩体制で観光振興が図られるよう全体のコーディネーター役になるとともにそれぞれが協働して最大限に活躍できる環境を整備することに努めます。